

特別講演 1

「専門医による膠原病・リウマチ診療の実際とシェーグレン症候群の臨床研究について」

福井赤十字病院 リウマチ・膠原病内科科長／腎臓内科

鈴木 康倫 先生

膠原病・リウマチ内科を専門とする医師が不在であった当院へ赴任して3年が経過し、数百件を超える院内外のコンサルトに応えてきました。発熱、疼痛、種々の臓器病変の3つが主な診療の入り口で、いくつか症例提示をしながら膠原病・リウマチの診断および治療の実際について提示します。膠原病治療は全般に脱グルココルチコイドの流れとなっており、全身性エリテマトーデスでも血管炎でも免疫抑制薬を併用して速やかに漸減する方針が推奨されています。

当科外来立ち上げから2年間までの集計で最も多い疾患はシェーグレン症候群で100例に達しました。演者自身の専門でもありますが、診断されていない潜在症例が極めて多いと考えます。また、ヨーロッパリウマチ学会を中心に運営されている国際コホート（EULAR Sjogren Big Data Project）にも継続的に参加しており臨床研究の一端も合わせて御紹介します。